

「M情報デスク」サポート団体
 救う会大阪 NO!民主桜組
 米国に原爆投下謝罪を求める会
 大阪の公教育を考える会
 スパイ防止法の制定を求める会
 外国人参政権に反対する会・関西
 日教組の憲法行為を自及する市民の会
 竹島を奪還する会・関西
 靖国神社に眠る御霊に感謝する会

MASUKI INFO, DESK FIGHTING REPORT

関西の
 政治
 情報

No. 124
 【発行・編集】
 MASUKI情報デスク
 増木直美
 大阪府豊中市上新田2-6-25-113
 TEL 090-3621-1509
 FAX 06-6835-0974
<http://mid.parfe.jp/>
 mid@jewel.ocn.ne.jp

今だから聞こう 三島由紀夫の最後の絶叫 十一月二十五日 三島先生御會 東京都議会議員 土屋敬之

三島由紀夫氏を「過激」「狂気」と片づけることは簡単だ。実際、その片づけた政治家もいた。しかし、彼の「純粹さ」を考えたことがあるだろうか。彼を超えて考えた者は誰もいない。

三島由紀夫氏は、戦後体制に対する、痛烈な批判の死だった。それと「動かない」大衆にたいする、批判の死でもあった。それを忘れてはいけない。

(前略)
 治安出動はいらなくなった。治安出動がいらなくなったので、すでに憲法改正が不可能になったのだ。

分るかあ、この理屈が……
 諸君は、昨年の10・21から後だ。もはや憲法を守る軍隊になってしまったんだ。自衛隊が20年間、血と涙で待った憲法改正というものが、機会がないんだよ。

(土屋議員、興奮のあまり相当五時があります！)
 もう、それは政治的プログラムからはずされたんだ。ついに、はずされたんだ。どうしてそれに気が付いてくれなかったんだ。

去年の10・21から一年間。俺は自衛隊が怒るのを待っていた。もう、これで憲法改正のチャンスはない。自衛隊が国軍になる日はない。健軍の本義はない。それを私は最もなげいている。

自衛隊にとって健軍の本義とは、なんだ。日本を守ること。日本を守ることはなんだ。日本を守ることは、天皇を中心とする歴史と文化の伝統を守ることだ。

(中略)
 諸君は永久にだね、ただ、アメリカの軍隊になってしまう

んだぞ。

(中略)

それで、俺は4年待ったんだ。自衛隊が立ち上がる日を……4年待ったんだ。最後の60分間だ。最後の30分間……諸君は武士だろう。武士ならば自分を否定する憲法をどうして守るんだ。

(中略)

これがある限り、諸君というものは、永久に救われんだぞ。

諸君は永久にだね。今の憲法は政治的謀略で、諸君が合憲のごとく装っているが自衛隊は違憲なんだ。

(中略)

どうして、そこと
 ころに気がつけない
 のだ。俺は諸君が完
 全に断つ日を待ちに
 待っていたんだ。

(中略)

よし、武という
 ものはだ、刀という
 ものはなんだ。

(中略)

それでも武士かあ。
 まだ、諸君は憲法改
 正のために立ち上が
 らないことに、みき
 わめがついた。



これで、俺は自衛隊に対する夢はなくなつたんだ。
 それではここで、俺は、天皇陛下万歳を叫ぶ……
 天皇陛下万歳……
 辞世
 益荒男がたばさむ太刀の鞘鳴りに
 幾とせ耐への今日の初霜
 散るをいとふ世にも人にもさきかけ
 散るこそ花と吹く小夜風

三島氏の死は、特攻隊の死と連続する。「後に続くあるを信する」と国体を護持するために、英霊は散華した。
 三島由紀夫氏の壮烈な死は、それに続く死だった。
 「後に続くあるを信する」この言葉を、私たちは重く受け止めなければならぬ。
 これは、暴力肯定でも、否定でもない。そんな低俗な次元の話ではない。

国の基である、国体を護持するか否かの問題だ。

現実政治では、民主革命政権のもと、国軍は「土木作業員」と化し、ますます、意識内軍、つまりは、「暴力装置」として存在するようになった。仙石のことは、自衛隊の今を的確にあらわしている。

無能総理ひとり辞めさせることも出来ない。保守の概念なき政治家が一方である。

これで、昭和20年8月19日の国体護持の「約束」は守られているといえるか。いえはしまい。保守の間にも、戦後のヤルタポツダム保守、システム保守がある。情けない話ではないか。

【檄文】直言掲載 是非、声を出してお読みください。

東京都議会議員 土屋敬之

三島由紀夫割腹余話

<http://www.geocities.jp/kyoketu/6105.html>

より

昭和四十五年(一九七〇)十一月二十五日、作家・三島由紀夫(四五)が東京都新宿区市ケ谷本村町の陸上自衛隊東部方面總監部の總監室において割腹自刃した。その際、三島と行動をとにした楯の会会員 四人のうち、森田必勝(二五)も、最後には古賀浩靖の手を借りたといえ、三島を介錯したのち割腹し、その森田の首をさらに古賀が刎ねた。いわゆる《三島事件》である。当時のある新聞が、三島の首と胴体が転がっている生々として非難を受けたことを記憶している。

【事件のあらまし】

死についての三島の計画の立てかた

は、その小説の結構と同様、手が込んでいた。彼は細心の注意を払って、身辺をきれいに整理した。十一月に先立つ半年の間に、彼は順を追って執筆その他の約束を果たした。「豊饒の海」第四部である「天人五衰」の最終稿を、彼は期日どおりに出版社に渡せるように完成した。三島が締め切りを守らないことはなかった。

彼はまた、彼の私兵である「楯の会」会員から、計画に参加する数名を慎重に選んで準備した。この特別班は、滞りなく事が進むようにリハーサルさえ行った。そして、二十四日の夜、三島は最終的な手配に取りかかった。友人のジャーナリスト二人に連絡し、米国人の翻訳者二人に宛てた最後の所感と指示や、後に残る楯の会会員宛ての手紙を含めて、幾通もの別れの手紙を書いた。

翌朝、彼は軍刀と、二振りの短刀を収めたアタッシュケースなど、必要な品々を揃えた。長篇の結びを書き終え、出版社宛ての封筒に入れて、自宅の広間に置いた。二人のジャーナリストに再び電話をかけて或る会館の名を挙げ、その口ビーで待っていてほしいと頼んだ。そして、楯の会の会員四人とともに自宅を出た。

楯の会の制服を揃って着込んだ三島と若い部下たちは、車で市ケ谷の陸上自衛隊東部方面總監部に向った。三島は東部方面總監益田兼利陸将に午前十一時に面会を申し込んでいたので、一行は到着すると直ちに總監室に通された。二、三分雑談したあと、前もって打合わせしておいた合図に従って、三島の若い部下たちは、なんの疑念も持っていないかった益田總監に飛び掛って縛りあげ、机や椅子などで部屋の入口を塞いだ。そして、外で唸然

としている幕僚らに対して、四つの要求を書いた紙を、ドアの隙間から滑り出させた。三島は、これらの要求が入れられなければ總監を殺し、自分も切腹すると脅迫していた。混乱した幕僚たちは武器も持たずに二回、室内の様子を見に押し入ろうとしたが、三島はまず彼らを威嚇して、刀を振り回して数人に怪我を負わせて、追い出した。暴漢となった作家の一行が本気であることを知った責任者は、捕われた總監の生命を気遣って、要求を受け入れた。彼は三島の演説を聞くために市ケ谷駐屯地の全隊員を正午前に集合させること、午後一時十分までは何が起こっても妨害しないことに合意した。

正午直前に、三島は總監室の外のバルコニーに姿を現わした。彼は定刻になるのを待って歩き回り、一方、森田は要求を書いた垂れ幕を広げた。十二時きっかりに、三島は足下に集まった隊員たちと、ふくれ上がったきた報道陣に顔を向けた。隊員たちに向ってマイク無しで肉声で、興奮した身ぶりをまじえつつ、真の「国軍」として目覚め、われわれの決起に参加せよ、と訴えた。

しかし演説の大半は、頭上を旋回する警察のヘリコプターの音にかき消されてしまい、ようやく聞きたれた言葉に対しては、隊員たちは野次をとばして反発し、からかった。戦力放棄を謳った憲法を否定し、自衛隊に対して「共に起ち、義のために死のう」と呼びかけた「檄」がバルコニーから撒かれたが、隊員の誰一人もなかった「檄文」。彼らは、作家の熱烈な訴えに嘲笑で応えただけだった。三十分間予定されていた演説は、七分間の茶番劇で終わった。三島と森田は、型通りに

「天皇陛下万歳」を三唱し、總監室に姿を消した。

三島は長靴を脱いで上着のボタンを外し、ズボンを押して下げて、床に坐った。鋭い短刀を腹に刺し込み、右へ向けて横一文字に引いた。名譽ある介錯人を選ばれた森田は、主人の背後に立ち、刀を振り上げて、三島の首を打ち落とす瞬間を待った。内臓が床の上に溢れ出、三島の体は前方か後方のどちらかに傾いた。森田は二太刀打ち下ろしたがうまく切れず、目的は果たせなかった。彼より大柄な隊員の一人が軍刀をもち取り、力をこめて正確に振り下ろした。三太刀目か首は離れた。あるいは「押し斬り」にしたのかも知れない。

ついで森田は、血まみれの三島の胴体の脇にひざまずき、三島が使った短刀を取って自分の腹を刺したが、切り口は浅く、筋肉と脂肪の層を切り裂くまでには至らなかった。これも切腹の一つの儀式であった。手練の二太刀で、彼の首も落ちた。後に残った三人の会員は、このとき涙を流していたが、總監の縄を解き、胴体と首をきちんと並べて深々と頭を垂れたのち、警官や警務隊におとなしく取り押えられた。血生臭い事件は終わった。

十一月二十六日付「朝日新聞」の報道によると、牛込署捜査本部は二十五日夜二人の遺体を同署で検視し、結果を次のように発表した。

三島の短刀による傷はヘソの下四センチ、左から右八十三センチも横一文字に切っていた。深さは約五センチ。腸が傷口から外へ飛び出していた。日本刀での介錯による傷は、首のあたりに三か所、右肩に二か所あった。

森田は腹に十センチの浅い傷があったが、出血はほとんどなかった。首は一刀のも

とに切られていた。三島と森田は「楯の会」の制服の下には下着をつけず、二人ともさらしの新しい「六尺」ふんどしをつけていた。

検視に立会った東京大学医学部講師・内藤道興氏は、「三島氏の切腹の傷は深く文字通り真一文字、という状態で、森田の傷がかなり傷程度だったのに比べるとその意気込みのすさまじさがにじみでている」と話した。

もう一つ、十二月十三日付「毎日新聞」掲載の「解剖所見」を引用すると、(三島由紀夫・十一月二十六日午前十一時二十分から午後一時二十五分、慶応大学病院法医学解剖室・斎藤教授の執刀)。死因は頸部割創による離断。左右の頸動脈、静脈がきれいに切れており、切断の凶器は鋭利な刃器による。死後二十四時間。頸部は三回は切りかけており、七疔、六疔、四疔、三疔の切り口がある。右肩に、刀がはずれたと見られる十一・五疔の切創、左アゴ下に小さな刃こぼれ。腹部はへソを中心にして右八五・五疔、左八八・五疔の切創、深さ四疔、左は小腸に達し、左から右へ真一文字。身長百六十三疔、四十五歳だが三十歳代の発達した若々しい筋肉。森田必勝(船生助教執刀)については、死因は頸部割創による切断離断、第三頸椎と第四頸椎の間を一刀のもとに切り落としている。腹部のキズは左から右に水平、へソの左七疔に深さ四疔のキズ、そこから右八五・四疔の浅い切創、へソの右五疔に切創。右肩に〇・五疔の小さなキズ。身長百六十七疔。若いきれいな体をしていた。

で描き、映画「人斬り」で自ら田中新兵衛に扮してみせた切り方であって、介錯を予定した切り方ではない。

しかし三島はこの拳に出る前に、森田あるいは古賀が介錯することを打合せているのである。そうとすれば、他人による介錯、すなわち斬首ということを用意した腹の切り方をすべきではなかったか。

三島のように、あれほどの深さで真一文字に切った場合(これは常人のなしえざるころである)、肉体はどういう反応を示すのであろうか。刀を腹へ突き立てたとき二つの倒れ方が想定される。

それは切腹の際の身体の角度による。瞬時に襲ってくる全身の痙攣と硬直により、膝の関節で折れ曲っていた両脚がぐっと一直線に伸びるためか、角度が深いときはガバとのめるように前へ倒れ、角度の浅いときは後へのけぞるのである。

これは切腹なしの斬首のばあいも同様で、押え役がいるときは前へ倒れるように押えているからよいが、支えがない場合の多くは後へ立ち上るようになってしまう。そのため、首打役もその介添人も血を吸ひることがある。(斬首のさい首の皮一枚を残して斬るとよくいわれるのは、押え役のない場合、そうすることで前にぶら下った首が錘となって身体を前へ倒れさせるからで、これは幕末の吟味方与力・佐久間長敬が『江戸町奉行事蹟問答』のなかではっきりと述べている。)

三島の場合、どちらの倒れ方をしたかわからないが、いずれにしても腹から刀(この場合は鎧通し)を抜く暇もなく失神状態に陥り、首は堅く肩にめりこみ、ひよっとしたら両眼はカッと見開かれ、歯は舌を堅く噛み、腹部の圧力で腸も一

部はみ出すといった凄惨な場面が展開されたかもしれない。それはとても正規の介錯のできる状態ではなかったと思われるのである。

介錯人としての森田の立たされた悲劇的立場が思いやられる。なぜなら、介錯人というものは「一刀のもとに首を刎ねるのが義務であり名譽であって、もしそれに失敗したとなれば、かつては宋代までの恥と考えるくらい不名誉とされたからである。

昔の首打役の不文律として、斬り損った場合、三太刀以上はくださないとされ、したがって二太刀まで失敗したときには、死罪人を俯伏せに倒して「押し斬り」にすることさえあった。死罪場においてちゃんと死罪人を押えて首をのばさせ、斬首のブロが斬るときでさえ失敗することがあるのである。まして三島のような身体的反応が起った場合には、一太刀で介錯することは不可能といつてよかつたのではあるまいか。

昭和四十六年四月十九日および六月二十日の第二回と第六回の公判記録によると、右肩の傷は初太刀の失敗であった。おそらく最初三島は後へのけぞったものと思われる。森田は三島が前へ倒れるものとはかり思って打ち下ろしたとき、意外にも逆に頸部が眼の前が上がってきたため手許が狂い、右肩を叩きつける恰好になったのであろう。そのため前へ俯伏せに倒れた三島が額を床につけて前屈みに悶え動くので首の位置が定まらず、森田はそのまま三島の首に斬りつけたか、それとも三島の身体を抱き起して急いで斬らねばならなかったかはわからないが、いずれにしても介錯人には最悪の状態ですらに二太刀(斎藤教授の「解剖所見」によると三太刀か?)斬りつけ、結局は森田に代った古賀がもう一太刀ふるわねばならなかったのは、致し方なかったと思われる。

最後はあるいは「押し斬り」に斬ったかもしれない。現場写真で三島の倒れていた部分の血溜りが、ほぼ九十度のひらきで二方向に見えているのはその結果ではあるまいか。森田は自分の敬慕してやまない先生を一太刀で介錯できなかったことを恥じ、「先生、申し訳ありません」と泣く思いで刀を振るったであろう。

しかしここで慥くべきは森田の精神力である。普通の介錯人は初太刀に斬り損じた場合、それだけで気が転倒し、二の太刀はさらに無様になるか、別な人間に代つてもう一つのものである。そのために介添人がいるのである。それほど斬首ということは極度の精神的緊張とエネルギーの消耗をともなう。

それなのに三太刀(ないし四太刀)も斬りつけ、しかも介錯を完了しえなかつた人間が、三島の握っている鎧通しを取って続いて自分の腹を切るということ、これはまた常人の到底なしえないことなのである。しかも腹の皮を薄く切つて、一太刀で自分の首を刎ねさせている。腹の傷が浅いということとこれを「ためらい傷があった」と報じた新聞もあるが、それはあたらない。人間の腹はなかなか刃物の通りにくいもので、むしろはじき返すようにできている。さらしてもきちり巻いているなら別だが、直接皮膚に刃物を突き立てたのでは、相当の圧力がなければはじき返されるものである。森田の場合は初めから薄く切つて介錯を見事にしてもらおうという考えであつたと思われる。切腹する人間は首を斬られて死ぬのではなく、介錯人に首をうまく斬らせるのである。それが昔の武士たちが実際の経験の積み重ねから作り上げた一番く見苦しくない切腹の美学であつた。

櫻井よしこ女史の櫻井よしこ女史

放射能被害に沈黙する 薬害エイズの櫻井よしこ女史

9月21日の朝日新聞をはじめとした主要五紙に「意見広告」が掲載された。広告主は「国家基本問題研究所」(理事長 櫻井よしこ 副理事長 田久保忠衛)

意見広告の趣旨は「選ぶべき道は脱原発の道ではありません」とある。なぜ明確に推進を主張しないか定かでないが、福島第一事故は「人災」であり、「日本の原発技術は優秀だった」と強調している。事故原因は、人災を引き起こした「管理」にあり、運用する技術は「優秀」だとし、原発の維持(推進)を訴えている。

「技術」と「管理(運用)」は一体であり、不可分の関係である。この二つは分離して発想するものではない。副島第一事故を例にとれば、原発の管理をまともに「運用」できずに、どうしてその「技術が素晴らしい」などと言えようか。しかも、「原発の安全性は飛躍的に高まっています」と。それならば、その具体例を示してもらいたい。意見広告の「国家基本問題研究所」に尋ねたいが、再処理施設のある六ヶ所村の現状を真面目に考えたことがあるのだろうか。あそこに、櫻井よしこ女史が自慢する自前の「優秀」な技術があるなら教えて欲しい。

全てをフランスのアレバ社に丸投げしているのではないのか。何らかのトラブル、事故が起きたとしても、日本は強制的な立ち入り検査さえ出来ない。これを一つとっても、「原発の安全性は飛躍的に高まっています」など言えないはずである。

六ヶ所村には我が国の主権が存在しない。フランス領六ヶ所村と言ってもいい。

常日頃、愛国を語る保守陣営の「国家基本問題研究所」の方々は、名を連ねて意見広告を出した以上、「保守派」の矜持を持ってこれらの疑念に答えて頂きたい。ましてや、櫻井よしこ女史におかれは薬害エイズ問題で政府の無策・無責任を厳しく追及して、国民の健康を守るために尽力された華々しい実績がある。

レベル7の放射性物資がまき散らされ、成長期の課程にある福島の子供たちが健康を脅かされている。原発維持を訴えるより、この健康問題こそ、薬害エイズで活躍された櫻井よしこ女史が取り組むべき問題ではないのか。

~~~~~

この度の福島第一事故による惨劇は、原発を基軸に推進しようとしたエネルギー政策の欠陥をさらけ出した。原発推進の背景には電源三法に基づく巨大な利権が存在する。再処理技術が未完のまま蓄積される核廃棄物とその対策処理費用、事故に伴う処理費用、これらがコスト参入される原発はどれだけ高価な電力料金か、これらを負担してきたのは他でもない我々日本国民である。原発が、「自然にクリーン」又は「安価な電力料金」などの幻想は木っ端みじんに砕け散った。

原発の安全を監督する立場の経産省は電力各社と癒着し、その建設推進にお墨付きを与えて来ていた。そして地元を支えるのが電源三法に基づく交付金、この利権に群がる政治家・官僚・経済界・御用学者とマスコミ・地元自治体など。

彼らが一体となって原発を推進してきたのだ。

美しい日本の山河を、これ以上、核廃棄物に汚させてはならない。今現在を、電気の恩恵に与るだけ与り、「後は野となれ山となれ」でいいの。原発の「利便」につきりながら、後世にとつてもない猛毒を残していく無責任が許されていいだろうか。原発をめぐる立場の相違を越えた深刻な問題であり、誰もが避けて通ってはならない。

先人が残してきた日本列島は、原発の「利便」につかる我々だけのものではない。この美しい山河を、後の世代にしっかりと残していく義務を自覚すべきである。これこそ主義主張を超えた国を思う真の愛国ではないのか。

我々は今般の原発事故という大惨事に至るまで、無関心という名の無知によって、この癒着にまみれた利権の構造を一顧だにしてこなかった。反省しなければならぬ。

「反原発を叫ぶのは国策に従わない反日サヨク」、「サヨクが原発に反対するから、保守は断じて原発推進」などなど・・・、こんな幼稚で不毛な議論は止めましょう。原発とは「発電用の巨大な原子炉」である。脱原発とは、それに依存するエネルギー政策からの脱却を意味する。周辺諸国に対する安全保障の観点から、原発と異なる「実験用の小型原子炉」を維持し、原子力技術の研究・開発を続けていく必要は不可欠であることを強調する。

電源三法と原発利権の廃止を！  
脱原発！国家の総力を挙げて代替エネルギーの開発を！！  
平成23年10月22日  
脱原発！愛国テマ行進実行委員会  
テマ参加者一同 代表 西村修平

《前頁末尾より》

そういう意味では森田のほうが昔の切腹の美学にかなっていたといえよう。さすがに三島が最も信頼した人物にふさわしい腹の切り方であったように思われる。

三島は生前、映画「憂国」(小説・憂国(抄))を製作したさい、二・二六事件で決起に遅れて自宅で割腹自殺を告げた青島中尉(「憂国」のモデルといわれる)の割腹現場に駆けつけた軍医から、そのときの実見談を聴取していたといわれる。

そして青島中尉が割腹後五、六時間たつてもなお死にきれず、腹から腸を飛び出させたまま意識を失い、のたうちまわっていた有様をよく知っていた。したがって介錯がなければ切腹が見苦しい死にざまを曝すおそれのあることを十分に認識しており、そのために介錯を予定したことは正しい計算であった。それなのに敢えてあのような深い腹の切り方をしたのは、なぜなのであるか。三島ほどの綿密な計算をする人にも、切腹後の肉体的変化までは計算しえなかった千慮の一失なのであるか。<奇異な感じを抱かせられた>と述べたのはそのためである。これはなにも三島の切腹を貶しめようとするものではない。三島はその文学において、必ず自己を主張しなければやまぬ人間であった。そのエゴの強さ、抜きがたい自己顕示性からあの赫奕たる文学が生れたのである。そして切腹の場に至るまでそのエゴを押し通したのだ。

三島と親交のあったドナルド・キーン(コロンビア大学教授)宛に投函された最後の手紙は以下のようだったという。「君なら僕がやろうと思うことを十分理解してくれると思う。だから何も言わない。僕はずっと前から文人としてではなく武人として死にたいと思っていた」

脱・原発愛国デモ 10月22日

榎 泰智 HPよ

午後12時30分、渋谷・神宮通り公園にて集会が開催され主催者挨拶連帯声明文、そして決議文朗読に続き、宣伝カーと日の丸先頭にして1時より、40分をかけて渋谷駅周辺をデモ行進した。

沿道の通行人が声援や拍手を送るなど反応は良く、途中からの参加もあり40名程のデモ行進となった。

福島第一原発の放射能漏れに対し、収束の目途も立たぬ状態で、未だ国民の危機感が高い中で脱原発デモ。

日本の現状からすればもつと多くの国民が参加してしかるべきところだろう。

参加者が少なかった原因としては、目的と訴えが明確であったことで、「原発反対ならなんでも良い」と言ったオマツリ気分の鳥合の衆が参加しなかった結果でもあろう。それはそれで良い事だ。鐘や太鼓を乱打して「原発いらぬい」を合唱するだけのバカ騒ぎに付き合つつもりはない。我々のデモ行進は感情的なストレス発散の場ではない。国家の改革を目指し、新たな日本の建設。それに伴う明確瞭なるエネルギー政策を提示した集会・デモ行進である。ミスターオマツリ人間では敷居が高かったであろう。しかし、じつくりと地に足を付けた運動とはそういうもの。

脱原発と言つ街頭運動は今回が初めて。まずは意識を持った、持つことができる核となるべき少数から声を上げていく。そこから理論的位置づけを明確にして底辺の拡大を計るのである。

現段階で以下の如き、国家的立場づけを理解できる国民が少数なのは仕方がないことだ。

集会における私の挨拶

原発を抱える自治体では電源三法の補助金によって、健康・福祉施設や体育施設、娯楽場など立派な公共施設が建設され住民はこれらの恩恵を得て、優雅な暮らしを享受できている。先般テレビを観ていたら、原発を抱える北陸地方の住民は「こんな危険なものを受け入れているんだから、この位してもらって当たり前だよな」と平然とインタビューに答えている。これは今般、避難の対象となった福島県の住人にとっても同じであっただろう。

イスラム教の教えでは「目には目を」「歯に歯を」という言葉がある。これは一見、残酷な教えのように見えるが、実はリーズナブル(理にかなった)な教えである。「目を潰されたら、相手の目を潰せ」と言うものであり、逆に言うならば「目は潰しても命までは取らないぞ」と言うことだ。

そういう点で、裁判にもかからないでリンチによってカタファイ(大佐を殺害した)、リビアの兵士達はイスラムの教えに反していると言える。

福島の住民達は今般の原発事故によって、今まで受けていた福祉施設利用等における恩恵を受けられなくなるのは仕方ないというか、当然の帰結である。

しかしながら、今まで築いてきた生活の全てが破壊され、故郷を追い出されるほどのダメージを受なければならぬ言われはない。正に「目には命を」的な扱いを受けたと言えよう。

原発を推進してきた時の権力者が意図しないところで、このような未曾有の災厄を引き起こした原発がそのまま推進されて良いわけではないのである。(榎 泰智)

私も原発問題で一言言わせてください

増本重夫

私は「脱・原発」です。言葉遊びをしても仕方ありませんが、「反・原発」ではありません。

美しい日本の山河を後世に 代替エネルギーの開発に国家の総力を「なによりも大事なことだ」と思います。もちろん現時点においては原発をドンドン回せ。休んでいる原発は今すぐ回せ。産業にエサ(電気)を与え、どんどん元気にさせよ。日本元気が最優先です。

今夏、節電のお触れが出たときも真っ先に関電に電話をし、「節電には一切協力できない。する気もない。日本の原発は世界一だ。日本だからこそあの程度で済んだ。直接には死人0。チェリノブイリではどれだけ人が死んだか。暑い、寒いならまだ我慢もできる。しかし産業への節電要請は絶対やったらいけない。それでなくとも経済が落ち込みかけそうなのに。日本を三流国家にするつもりか。バカモノ！」と怒鳴りました。

担当者はたいへん喜んで、「みなさんそう仰っていただけとうれしいんですが」と言っていました。経済が落ちたら代替エネルギーの研究もできない。本末転倒です。

今回のデモは、「原発を止めろ！」ではなく、「原発以上のエネルギー源を開発せよ。」という観点で賛同しました。現段階においてはいろいろな面で原発は最高のエネルギーだと思えます。しかし、未知の部分が多い。例えば、青酸カリなら何グラム以上で死ぬ。と致死量がはっきり分かっています。ところが放射線は「何シーベルト」と毎日新聞を賑わしていますが、それじゃ何シーベルト浴びたらどうなる。だれ

もはっきり言えません。多分このくらいで・・・このように・・・。学者によりまちまちです。20年後、30年後に思っている以上に重大な健康被害が出るのかもしれないし、心配しすぎなのかもしれない。感情論になりますが、要はわけがわからない。各々の学者は自分なりに被害と数値の関係をつかんでいるのでしようが、私を納得させる『被害の定説』はありません。悪い目ばかり考えてもしょうがありませんが、副作用のリスクがあるものはできればそばに置いておきたいのが人情だと思います。

戦後、原発が開発され、50年ほどの年月が経過しようとしています。S社の利権の絡んだ胡散臭いソーラーパネルの話や子供だましの風力発電ではなく、「美しい日本の山河を後世に」残せる、かつ日本の産業をさらに発展させることができる、安価でチョー安全な次世代の熱源を研究する時期が来ているのではないのでしょうか。完成に50年はかかる。ボチボチ始めないと。

おじい夫婦

昨日淡路島へ戦没学徒の慰霊祭に行つた。詳細は別頁で報告するが、同行したテル爺から「鷺(おじどり)夫婦」と言われた。

私は前夜ほとんど寝てなかったので、運転が怖く、予備の運転手に直さん(嫁)を連れていったのだ。さて、鷺(おじどり)夫婦。私が最も夢に描く希望の夫婦の形だ。一日でも早く、「鷺(おじどり)夫婦」になりたいと思っている。

鷺夫婦が仲のいいのはその年だけで、次年は嫁が違う。鷺は毎年嫁を変えるのだ!!! 知ってた? マスキ



# 第十七回戦没学徒追悼祭

## 平成二十三年十月二十一日 淡路島南端

今年も、淡路島南端、南あわじ市阿万大見山、若人の広場において、10月21日午前11時より、第17回全国戦没学徒追悼祭が行なわれました。快晴の中、参加者約100名。

開式の辞の後神事。「修祓の儀」より始まり、今年も喇叭隊の演奏、神楽奉奏等が行われました。特に印象に残ったのは、神道青年全国



上；慰霊祭全景 遠くに鳴門大橋(左上)を望む  
左；我々を代表し玉串奉納  
(手前より)和田有一朗、森脇保仁両兵庫県議

協議会会長、帯広神社の宮司 大野聖徳氏の、「戦没者を慰霊するのは一番で、先ずは顕彰しなければいけない。顕彰が一番大事だ。彼らを『国の犠牲になられた方々』というが、犠牲ではない。そんな言い方は失礼だ。彼らは国家のため自分の意思で出征された」というお言葉でした。

先の大戦で我が国の敗色が次第に色濃くなった昭和18年10月21日、神宮外苑競技場で学徒出陣壮行会が行われました。(このとき最前列で見送ったのが若かりし頃の伊藤玲子元鎌倉市議)当時、全国で約400万人の学生、生徒が戦場や軍需工場あるいは農村に動員され20万人余の若く尊い命が亡くなりました。勉強したかったです。卒業したかったです。無念だったと思います。今日の平和な日本、そして繁栄。それは彼らの尊い命との引き換えであること忘れてはなりません。

今日10月21日。私たちは森脇保仁、和田有一朗両兵庫県議を先頭に、長谷川潤氏、岡山からテル爺こと西川晃男氏も駆けつけ総勢9名で参加、感謝のまことをささげました。

記念塔があるのは、淡路島の南端福長の町(高速西淡三原の)から南へ15分くらいの瀬戸内海が一望できる高台。私達は3年前、第14回にも参加しました。遠くに鳴門大橋を望む若人の広場は何も変わっていませんでした。

この記念塔の横に資料館があります。阪神淡路大地震で崩壊し、その後紆余曲折があり今は朽ち果てていますが、昨年5月に南あわじ市が土地建物を買い取り、前記真議らの尽力で保存に県の予算が付きました。時間はかかると思いますが、復興への第1歩を踏み出しました。

### 国士館で学祭中止に 欠けた日の丸のポスターとシンポジウムへの批判受け

2011.10.30 サンケイ

国士館大学(東京都)の21世紀アジア学部が企画した学祭「Asia21」の告知ポスターとチラシに、国旗の一部が欠けた図柄が使われていたことが学内で問題となり、29日に予定していた学祭が取りやめになったことが分かった。

問題の図柄は、大学の発注で外部のデザイナーが制作。日中韓の各国旗を使い3カ国の関係をジグソーパズルで表現しているが、日章旗の一部のピースが外れて飛び出し「日の丸」が欠けていた。

学部祭は「東アジアの連携を求めて」をテーマに、同学部の教員らが企画。ポスターとチラシは計約2千枚が印刷された。10月上旬から学内や小田急線の電車内、沿線の駅などに張り出された。

学内でチラシを見た同大学の男子学生(20)が「国旗の冒瀆に当たるのではないかと、質問状を提出した。学生は、学部祭のメインイベントであるシンポジウムが、中韓の有識者のみを招いた対談となっており、日本人有識者の出席予定がないことも指摘。「日本の立場を説明できる識者が登壇しないのでは議論にバランスが取れないのではないかと訴えた。

大学によると、他にも複数の意見が寄せられたという。開催を主張する意見もあったが、20日になって、茶道などシンポジウム以外のイベントも含めて学部祭の中止を決めた。

学部祭実行委員長の前田信男教授は「さまざまな意見が寄せられており、混乱を避けたいという」《次頁4段へ》



# 国士館大学の韓国問題

平成23年10月16日  
国士館大学 様

国士館大学政経学部政治学科

二年 松田 晃平

質問書

平成23年10月29日に開催される予定の21世紀アジア学部の学部祭「Asia 21」について下記質問致します。

一、学部祭の案内チラシに描かれている日章旗がパズルになっておりその日章旗のパズルの一部分が欠けております。これは意図的に行われていると解釈も出来ませんが一体何故なのでしょう。

二、東アジアの講演・シンポジウムに関して、当日登壇する予定の朱建栄という人物は「尖閣問題は日本が悪い」「中国の食品は安全」「南京大虐殺はあった」と主張している人物であります。このような、反日本的な人物を呼ぶメリットは何でしょうか。また、東アジア共同体という政治的に賛成・反対が分かれている問題なのに何故当日、日本人が一人も登壇しないのでしょうか。

三、国士館大学の創設者、柴田徳次郎先生は昭和四十年代、日比谷野外音楽堂において天長節の集会を開き「共産党撲滅」「打倒朝日新聞」というスローガンを掲げ、集会を行いました。しかし、二、にも書いた朱建栄は中国共産党の代弁者といっても過言ではない人物、もう一人の李鍾元は朝日新聞アジアネットワークの客員研究員であります。こうした国士館大学の理念に合わない人物を何故呼ぶのでしょうか。

四、「協力」に韓国文化院が入っています。韓国文化院とは韓国の一政府機関です。韓国といえは、日本固有の領土竹島を

実行支配している国。

こうした、韓国の一政府機関である韓国文化院を「協力」に入れた意図は何でしょうか。

留学生を多く受け入れ、そういった人達のための講演・シンポジウムを開くのは反対しません。しかし、今回の件はチラシの日章旗冒涇といい、登壇する人物が問題だと感じました。これは、留学生の受け入れに際して配慮する点と国旗を冒涇、反日的な人物を登壇させるとは決して二ではないと考えております。また、私が今回このようなメールを送った最大の理由はこれを見た他の国士館生や他大学生、国士館大学OB、一般の方等も同じような意見を述べており、国士館大学としての見解を知りたかったからであります。お忙しいとは存じますが宜しくお願いします。以上

私たちの仲間、国士館大学の松田晃平君に座布団3枚!!!

事の詳細は前頁4段の産経新聞の記事を読んでください。私はそもそもこの問題の起因は何かを考えてみました。大学内での中国人(学生、教授等)とのトラブルは今から10年前に麗澤大学でも起きています。弊紙の情報122号(P8~P11)で詳細を書かせていただきましたが、麗澤大学の講師、藤井敬喜先生が「シナ」の呼称で授業を行なった。それを中国人学生が抗議。藤井先生の解雇に発展した事件です。温度差、多少の時間差はあれ、麗澤大学も国士館大学も真因は基本的に同じだと考えます。国士館は一応抑えたものの、中国人への

過度の配慮です。

各大学はバブルを背景に奇妙な名称の学部を増やしたり定員を増やしてドンドン発展した(『内容』ではなく、『規模』が)。当然学舎も増設。ところが急激な少子化で生徒が激減。大学全入と言われても生徒がいない。エライコッチャ! 補助金の減額! 規模を大きくしてしまった学校は倒産への道しかない。そこで、学生の定員確保に禁じ手、中国人を入れてしまった。それでも追いつかず倒産した学校もありましたが。

中国人を受け入れた以上はそれなりの配慮もしないとイケない。経営者の立場でものを考えると当然のことだと思えます。要は、少子化に進むのに、無計画に学校を大きくしたことはないでしょうか。

大学とて例外ではなく、バブルで浮かれたわけです。そのツケが回ってきたのだと思います。 増木



上;問題のポスター 下;九段下で演説する松田君

《前頁末尾より》

判断から、残念だが中止を決めた。国旗を侮辱する意図はなく、あと1ピース頑張れば3国が連携できるという意味だった。シンポジウムの前には、日本人研究者の講演も予定していた」と説明している。

中止の決定に、問題を指摘した学生は「チラシの撤去は当然だと思う」というので、「シンポジウムで、問題点を議論する方法もあったのか」とも話している。 同学部は平成14年に設置され、中韓両国を中心とした留学生400人を含めた約2000人が在籍している。

日本では、外国国旗への侮辱を罰する「外国国旗損壊罪」(2年以下の懲役か、20万円以下の罰金)があるが、自国民への侮辱を取り締まる法律がない。 日本大の百地章教授(憲法学)は「国民の国旗に対する意識の表れが法制度にも出ている。今回は国旗そのものを傷つけたわけではないが、自国、他国を問わず尊重するのが国際常識で、不適切に扱う風潮を防ぐため、国旗損壊に対する刑法を整えるべきだ」と指摘している。



# 朝鮮学校

## 朝鮮学校無償化、民主議員ら「考えを合」 JNN 10月26日水

朝鮮学校の高校無償化が早ければ、今月末にも実施の可能性があると、中野前拉致問題相ら民主党の議員が「朝鮮学校授業料無償化を考える会」を設立し、「納得できる審査結果でなければ支給すべきでない」と述べました。

「彼らの政治姿勢の中で、『日本からいかに力ネを引き出すか』、彼らの主目的の一番大きなところであります」(中野寛成・前拉致問題相)

「世界中に日本人学校がありますが、どこの日本人学校もその国の政府からお金をもらっているわけではありません。中でどんな教育をされようと、僕は、勝手やと思っています。一切、日本の税金と関係なしにやってくれと。優遇措置もやめてくれと」(中井洽・元拉致問題相)

「朝鮮学校授業料無償化を考える会」は、拉致問題担当大臣経験者ら民主党議員50人で設立されました。総会では「拉致問題に関する歴史教科書の記述など審査状況をチェックし、国民が納得できる内容に改善されなければ無償化を実施しないこと」などを求める野田総理大臣と、中川文科相宛ての決議文が採択されました。

## 朝鮮学校無償化 19道県が反対

「暴挙だ」産経新聞 10月24日

朝鮮学校への無償化適用に反対の意思を示す動きは、全国の地方議会に広がっている。適用に反対したり、慎重な審査を求める意見書可決は産経新聞の調べで

請願も含め、19道県にのぼる。菅直人前首相が辞任間際に審査再開を指示したことに反発し意見書可決をした。地方が国に「ノー」を突き付けた形だが、場当たりのな再開には批判が強く、反対の動きはさらに加速しそうだ。

「朝鮮総連(在日朝鮮人総連合会)が教育内容、財政、人事に強い影響を与えている朝鮮学校の無償化審査再開はとも国民の理解を得られない。暴挙だ」宮城県議会が18日に可決した意見書は、審査再開をこう批判。野田佳彦首相らに審査の即時撤回を求めた。同県は昨年11月の北朝鮮による韓国への砲撃事件を受け、朝鮮学校への補助金を今年度から停止している。

昨年12月に朝鮮学校無償化に反対する意見書を可決した鹿児島県議会も今月7日、「拉致問題の解決に対し誤ったメッセージになる」と、異例の2度目となる反対意見書を可決した。両議会ともに強い懸念を示すが、菅前首相が砲撃で停止していた審査を再開した理由を「事態が以前の状態に戻った」とした。鹿児島県議会は意見書で「北朝鮮は謝罪もしていない。なぜ『戻った』と判断したか明確な説明は一切ない」と批判した。

意見書は地方自治法に基づき、地方議会の意思を国に示すために出す文書で、首相や衆参両院議長らに提出される。19道県 北海道 青森 宮城 新潟 栃木 千葉 山梨 滋賀 富山 石川 福井 岡山 広島 山口 香川 長崎 大分 熊本 鹿児島

## 朝鮮学校 補助金1億5千万円減 進む支給見直し、生徒離れ 産経 10/24

朝鮮学校に対し全国27都道府県が平成22年度に支出した補助金総額は約4億円で前年度に比べ約1億5千万円減ったことが23日、文部科学省の内部資料や産経新聞の調査で分かった。無償化問題で在日朝鮮人総連合会(朝鮮総連)と直結した反日・思想教育や経営実態が明らかになり、補助金を見直す動きが相次いだ上、生徒離れが起きているため。一方で学校の実態把握もせずに依然、支給し続けている自治体も多い。

補助金を大きく減額したのは大阪、東京、埼玉、福岡の4都府県。無償化問題をきっかけに大阪府は、朝鮮総連の影響を排除し、教室から金正日総書記らの肖像画を外すといった支給条件を提示。肖像画さえ外さなかった朝鮮高級学校(高校)分の支給を見送った。

東京都も「議会の議論を踏まえ、判断する」として対象から朝鮮学校を除いた。埼玉県は、朝鮮総連系の朝銀信用組合の破綻で朝鮮学校施設が整理回収機構(RCC)に仮差し押さえされていることから「経営の健全性が確認できない」として支給を凍結した。

減額は計17都道府県にのぼるが、多くの自治体が生徒数などに応じて支給額を算出しており、生徒の減少が主な要因の一つ。学校関係者や元生徒によると、反日教育や金総書記らを礼賛する思想教育が原因で別の学校に移る生徒も少なくなく、補助金の減額からも生徒離れが裏付けられた。

今年度に入って千葉県も埼玉県同様の理由から支給を保留。三重県でも支給を止めており、今年度の補助金総額はさらに減る見通しだ。

## 朝鮮学校、教科書2種類使い分けか 産経新聞 10/03

朝鮮学校側が拉致問題に関する記述を訂正したとしていた教科書が多く、学校で使われていなかった問題で、神奈川県は2日、訂正を前提に補助金支出を決めた神奈川県立神奈川朝鮮中高級学校(横浜)の教科書使用実態を調査する方針を決めた。黒岩祐治知事が産経新聞の取材に再調査を指示したことを明らかにした。

同校では補助金や無償化の審査のためだけに、改訂版の実物を準備していた可能性があることも判明。一方で関係者によると、西日本など多くの学校は訂正の事実も知らされておらず、従来の教科書を使っていた。朝鮮学校側が、従来の教科書と、公開用の改訂版の2種類を使い分けている疑いが強い。

## 朝鮮学校に職員室の肖像画撤去も要請へ 橋下知事 産経10月17日

朝鮮学校への補助金支給に対し、金正日総書記らの肖像画を教室から撤去するなど独自の要件を設定している大阪府の橋下徹知事は17日、初級学校の職員室に肖像画が掲示されている問題について「掲示は控えるべきだ」として、職員室の肖像画も撤去するよう学校に求める考えを示した。ただ、「要件の見直しや(補助金を)出すかは議会で判断してほしい」と述べ、9月議会に提案した朝鮮学校への補助金を含む補正予算案を自ら修正はしないとした。

「大阪維新の会」府議団は、「団としての意見で、撤去が確認できるまで補助金を支給すべきでない」と述べ、21日に予定されている議案採決では、補正予算案から朝鮮学校への補助金を分離した修正案を議決する考えを示した。



# スパルタの海は健在!

私は塾経営35年の経験にかけて、戸塚校長の教育論は正しいと信じます。先生の発言1つ1つ全てに、私の塾で「こんなことがあった、あんなこともあった」と、思いついた話を語れます。

増木

「体罰は教育」信念ブレず!  
戸塚ヨットスクールの戸塚校長、制止を振り切りマスコミや文科省を痛烈批判!

「正しいのは日本流の精神論」  
シネマトゥデイ 10月29日(土)配信より

戸塚ヨットスクールを題材に1983年に製作されるも、戸塚宏校長や関係者の逮捕により公開中止となっていた映画『スパルタの海』が28年越しに公開され、26日に渋谷シアターZで行われた初日舞台あいさつに戸塚校長が登場。司会者の制止を振り切って教育論を繰りひろげ、マスコミや国政を痛烈に批判した。

愛知県美浜市にある戸塚ヨットスクールは、非行や不登校などの問題を抱えた子どもを受け入れる更生施設として1979年に開校。体罰を交えたスパルタ式ヨット訓練を行っていたが、1980年と1982年に訓練生の死亡事件が発生し、さらに1983年に戸塚校長自身が逮捕されたことでその名を知られることとなった。

現在「11歳の戸塚校長は、物柔らかな笑顔振りまきながら」(戸塚ヨットスクールは)「いまだに拒否されっぱなしなので、この映画をやってくれたのは奇跡みたいな感じです」とあいさつを行った。映画にちなんだ内容のトークという予定で幕を

開けた、この日の舞台あいさつ。最初は自身の役を演じる伊東四朗とのエピソードなどを和やかに語っていた戸塚校長だったが、「体罰」というキーワードが出た瞬間にたちまちスイッチが入った様子。「体罰は悪という方が多いが、それが本当に正しいのか考えたことありますか? 日本中が人の意見を、ただ『格好いいから』と平気で自分の意見としている。そういうことをおかしいと思っただけだとありがたい」と観客に訴えかける。

映画の話に軌道修正しようとする司会者をよそに、戸塚校長はさらにヒートアップ。人間性は子どもの中に作らないといけないという自身の理論をもとに「今の教育は甘やかし過ぎ。子どもが何を言っても『権利だ、自由だ』と守り、変なことをしても『個性だ』と言いやがるので、こどもは赤ん坊状態のまま大人になっている。それ以降に人間性を作ろうとしても手遅れ」と指摘し、無差別殺人などの凶悪犯罪を起こした容疑者たちについても「あれは犠牲者なんです」と持論を展開した。

そして戸塚ヨットスクールの存在意義について「うちがあるということは、教育が失敗したから」と主張する校長は、死亡事件後のマスコミによる猛バッシングについて「何か起こったとき(死亡事件)に、ああいう子どもを作った文部科学省やマスコミは無罪で、直そうとした人間たち(戸塚ヨットスクール)が有罪になる。これでは全く民主主義にならない。マスコミは民主主義を知らないから平気で弱いやつをいじめめる。こんなバカ

なことをやってきたから教育はダメになった。あのとき、真剣にうちの言ったことを聞いてもらえ、教育は正常化していたから」と積年の思いを晴らすかのようになくし立てた。

さらに戸塚校長は、現在の教育の問題点として、ヨーロッパ流の精神論が蔓延(まゐ)ん)していることを挙げ「ヨーロッパ流の精神論は、単なる哲学と宗教の組み合わせ。正しいのは日本流の精神論。戦後に否定された大和魂は、実は進化論なんです。どっちが科学かといったら、進化論に決まっている。それなのに、日本は科学を捨ててわけのわからぬ想像論を入れてしまった」と現在の教育を痛烈に批判。

定時間を過ぎて、司会者が終了を求めたもしばらく話し続けていた戸塚校長は、まだまだ話し足りない様子のまま舞台を後にした。

『スパルタの海』は家庭内暴力が悪化したため同スクールに送り込まれた不良少年が、壮絶なしごきや仲間死、恋などを経て成長していくさまを描く。体罰も辞さない厳しい訓練に絶句しつつも、体罰は教育なのか暴力なのか、改めて考えさせられる一作だ。(肥沼和之)

映画『スパルタの海』はシアターZ渋谷ほか全国順次公開中

戸塚ヨットスクール校長・戸塚宏「11歳の若い男を見ると国がつぶれてしまうと感じる」

シネマトゥデイ 10月22日(水)配信より

11日、阿佐ヶ谷ロフトAで映画『スパルタの海』公開記念トークショーが行われ、戸塚ヨットスクールの戸塚宏校長が出

席、3時間以上にわたって過激な教育論をぶちまけるなど、「11歳にしてなお教育への情熱は衰えていないことをうかがわせた。

1980年と1982年に起きた訓練生の死亡事件、および1983年の戸塚校長の逮捕などが大きな社会問題となり、世間を騒がせた戸塚校長であるが、会場に登壇するなり、「この会場には、体罰反対の人も、賛成の方もおられると思う。むしろ体罰は悪なりということ思っている方もいるでしょうが、意見というものは自分で作るものだということがわからないといけない。皆さん、マスコミの言いなりになってはいかん! スパルタは悪いという意見もあるが、これはいいんです。子どもたちのためにやっているんだから」と戸塚校長は絶好調。去る9月11歳の誕生日を迎えたばかりの戸塚校長だが、教育に対する情熱はまったく衰えていないようだった。

さらに戸塚校長の教育論は続く。「快を求め、不快を避けるのが人間の原理。だから成長させようと思ったら、本人に不快感を与えないと。しかも、進歩の能力というものは、小学校のうちには身につかないんです。しかし、今の教育は寝て伸ばせばばかりに、子どもたちの不快を取り除くことに尽力している。それは母親がやるべき仕事で、父親や先生がそれをやってはいけません。小学校のうちには甘やかせるとその能力が向上がらないので、一生後悔します」ときっぱり。その過激ともいえる考えには異論もあるが、戸塚校長は時間が許す限り持論について言葉を費やした。

そんな戸塚校長の教育論で物議を醸すのは、やはりいじめを推進するといっただろう。

# 各位からの感想

## 「中国政経懇談会」(11/15)

奥中正之(広野)

10月16日の夜、放映されたNHKスペシャル「緊張の尖閣諸島何が日中知られざる攻防」▽人民解放軍の思惑▽密着潜水艦秘密行動」、この報道により、退役された自衛隊最高幹部と中国人民解放軍現役幹部たちとの懇談会の存在を私は初めて知った。

その懇談会の名称は「中国政経懇談会」(以下「中政懇」と称す)である。

私の勉強不足なのかも知れないが、産経新聞、月刊誌の「正論」、「WILL」、「SAPRO」などにおいても、当該懇談会のことは取り上げられたという記憶が無い。恐らく皆さん方も、「中政懇」の存在を知らない方が多いのではと思う。しかし「中政懇」は、日中両国間の信頼性醸成を狙いとして、これまで35年間も、絶えることなく連続として毎年開催されている。

NHKスペシャルでは、「中政懇」の日本側の狙いは、実態が不透明な中国の軍備増強に関する中国側の思惑を探ることにあると述べていた。しかし「中政懇」はもっと深い思想と幅広い目的で継続的に開かれているのである。

元空将の永岩俊道氏より、「中政懇」に関する評論が届けられた。永岩氏がハーバート大学ケネディスクールの栗原先生と共同で纏められたA4版20枚からなる英文の評論(Essay)である。Tokyo-Cambridge Gazette:Politico-Economic Commentaries, No.7 (Oct.11.2011) Japan-China Military

Confidence Building Measures (Part 1)-History, Politico-Economic Environment and Evolution-  
となつて居る。

栗原先生が継続的に作成され、インターネットにも配信されている。

「Tokyo-Cambridge Gazette」シリーズの一環であり、今回「中政懇」に関して、永岩元空将とタグを組まれたものと考ええる。

評論者・永岩氏と栗原先生は、哲学者・カントの言、即ち：

「人々は地球上において互いに完全に分離できるものではないから、相手の存在に関して寛容でなくてはならず、一定の期限、疎外者を受け入れる約束事が必要である。また仲間として、暫定的にその存在が認められ、仲間とされる権利は全ての人々が有している」を引用し、急速に強引な主張を増加させ国際社会において異彩を発する中国との話し合いの必要性を高邁な思想に立ち上げて説いている。

また永岩氏と栗原先生は、真珠湾攻撃前に犯した松岡洋右外相のミスを事例として取りあげ、松岡外相の様な無謀で目つ出鱈目な発言をする人物は何時どここの国にでも現れ得るとの示唆を投げかけ、不透明度が高い中国との定期的な話し合いの重要性を読者に訴える。

毎年防衛予算の削減を続けるわが国に対し、中国は毎年軍事予算を増加させ、長期の視野に立ち、一貫した姿勢で軍事力の強化を推進している。

面国の非対称な軍事バランスの推移が、地域に無用の緊張や 《下段中程へ》

《↓前頁末尾より》

「はじめには良いじめと悪いじめがあります。かつては、いじめやケンカを通じて人間性を高めていた。徳育ですね。正しいいじめをなしているのが、正しいいじめ。行動が正しくなければ、いじめられなくなりますからね。でも、今のいじめは、お前が嫌いだと言っただけで、本人の努力ではどうしようもない。これが悪いいじめ」と戸塚校長の弁も熱を帯びてくるが、そんな流れから「実は「ハリリー・ポッター」が大好きなんです」と意外な事実も飛び出した。「結局あれが教育なんです。権利の国、人権の国でやってくる教育があれでしょ。先生は絶対的だし、ちょっと気に入らないことがあるとクビになる。危ないこともやらせるし、ケンカし放題、いじめし放題でしょ」と語るなど、大ヒットシリーズから戸塚校長なりの教育論を引き出していた。

《下段へ》

《↑上段末尾より》 紛争を引き起こさないか？  
そして、その危険性を封じ込めるにはどうすれば良いのか？ 国家を挙げて取り組まなければならない重要課題である。

その一端を担う形で、退役された自衛隊最高幹部の方々が毎年智慧と精神力ふりしほて中国の制服組と討議している。頭の下がる思いである。

社民党系や共産党系そして民主党の左派系などの政治家には、自衛隊は戦争を起こす危険な存在だと決めつけている人たちが多い。いや自民党の中にもそういった政治家は居るのではないかとと思われる。しかし制服組、つまり軍事の「口」が戦争防止に懸命に取り組んでいる姿勢に我々は注目し、且つ感謝しなければならぬ。  
元空幕長の 《次頁へ》

戸塚コットスクールのうたい文句は、「男を作る」ことにある。「今の若い男

を見てみると、国がつぶれてしまうと感じますよ。だからわたしたちは、将来の日本のために、男を作ることを始めたいです」と切り出した戸塚校長は、男の役割として「子供を作る」「女子供を守る」「(国の将来を守るための)愛国心」「(えさをとってくる)金」という4点を挙げた。それでは、そんな戸塚校長が愛すべき女性像とはどのようなものなのか。「何で男が自分の奥さん、子供を守ろうとするのか。その理由はただ一つ。かわいいからですね。かわいいから守りたいと思うんです」と穏やかな笑顔に。ちなみに最近の戸塚校長のお気に入りのマッコ・デラックスだとのこと、トーク中にもしばしば言及。「講演会をやったときに、会場には偏差値秀才ばかりが来ていて、屁理屈ばかりこねていたわけです。そこに彼女がおってね。そいつらに『あんたたち何よ！ それでも男なの』とスパッと云ってくれてね。あれからファンになったんですよ」と語った。

本作は、東映の故・岡田茂社長の片腕として、『江戸川乱歩全集 恐怖奇形人間』といった数々のエログロナンセンスな異常性愛路線映画を手がけてきた鬼才・天尾完次プロデューサーが、ノンフィクション作家・上之郷利昭の同名ルポタージュにほれこんで製作した青春映画。1980年と1982年に起きた訓練生の死亡事件、および戸塚校長の逮捕の影響によって急ぎよ上映中止に追い込まれたいわくつきの作品が28年ぶりにその封印を解く。(取材・文：壬生智裕)  
映画『スバルタの海』は10月29日よりシアター・渋谷ほか全国順次公開！

《↓前頁3段末尾より》

田母神氏は「自衛隊員が最も戦争を望んでいない。戦争になれば、真っ先に死ぬのは自衛隊員だから。」と仰っている。「適切な軍事力は戦争勃発を抑制する」という世界常識を先ずは強調したい。

なお、軍事力整備は相手国の軍事暴走を抑止するのが目的であるということはよく聞く。しかし、その前に、外交折衝上軍事力を背景として相手が発する恫喝を抑止するのも軍事力である。この点を併せ強調して置きたい。

### 大阪府教育基本条例案について (意見)

湯澤甲雄 (横浜の教育を考える会)

平成23年10月13日

大阪維新の会 御中

大阪府教育基本条例案を読ませていただきました。

知事が設定した府下の学校が実現すべき教育目標達成のための法組織が、綿密に組み立てられていて、基本的に賛同いたします。教育は法の定めるところにより行われると憲法規定にあります。しかし現実には、法組織が不完全であったり、法の違反者に罰則が適用されず、法の違反が結果的に公認されるということから、従来の教育行政責任者が自信喪失し、ずるずると日教組に傾斜し、法の定めるところでない教育が教育界を支配してきています。本条例案により教育行政責任者は、自らの行為が法で保護されると自覚できるのでは、自信を取り戻して積極的に職務に励むようになると思われれます。

さて、本条例案の中で、触れていない重要なことが二点あると思います。一つは、憲法が普遍の原理とする自由民

主義政治体制を守る教育です。このため、条例第一条と第10条の手直しが必要だと思います。

二つは、平等主義教育を推進する職員団体の教育行政への関与を排除することです。このため、条文を新設し、職員団体を条例の下に置くことです。

この場合、守るべき自由民主主義の正しい定義について、国際人権条約(自由権規約と社会権規約がある。)を英語の原文で理解して(外務省翻訳は、故意の誤訳、曲訳があつて意味不明)、憲法11条と12条の正しい意味、11条と12条の法

秩序、13条冒頭文「国民は個人として尊重される」の英語の原文誤訳を知り、正しい憲法解釈は何かを、自由法曹団に予め確かめる必要があります。また、差別解消、個人の権利尊重という名の平等主義、共産主義が、「人権教育」の名において、自由民主主義を亡ぼしにかかっています。その「人権教育」の指針は、文科省初等中等局の諮問委員会、地方の各

首長局の諮問委員会のそれぞれの答申(法律ではない)が、教育委員会宛に送られて、各教育委員会はそれを単に学校長に転送して行われています。

「人権教育」は、法の下に行われている教育ではないことを確認のうえ、条例の条文にどのように規定するかを検討する必要があります。

「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」は、第1条(目的)の「不当な差別の発生等の人権侵害の現状」という憲法違反の認識が前提とされている。第4条(国の責務)、第5条(地方公共団体の責務)第9条(国民の責務)等が、

憲法第三章「国民の権利及び義務」のどの条文にも該当しない、そもそも憲法違反の法律です。この法律を根拠に「人権

教育」を強要する勢力に対し、対抗する条文がどのように条例に盛り込まれたら良いか、検討を必要とすると思われれます。ご健闘をお祈り申し上げます。

### 九条の会、七変化

松谷祐子 (三重)

九条の会という団体が、全国津々浦々に存在する。所属会員は元職、現職の教育公務員が多いと聞く。

憲法九条を守ろう！  
九条は世界の宝だ！  
九条の理念を広めよう！  
と、何かと憲法九条を持ち上げている。

九条を守るだけでなく、これらの団体は頻りに衣替えを行い、  
教育基本法を旧法に戻せ！  
裁判員制度反対、「教え子を法廷に送るな！」  
差別をなくす人権教育の充実を！  
原爆水爆禁止！  
朝鮮学校授業料無償化の早期実現を！  
国旗国歌反対！  
また最近では、福島原発事故を受けて「原発いらぬ！」さよなら原発

など、様々な運動を行って、まさに七変化と言える。

安倍政権のもとで改正された新教基法は「教師や児童・生徒を生きとらなくさせる悪法」と位置付け、本来は教育委員に委ねるべき教科書の採択にも、遵法精神クソ喰らえとばかり、あの手この手で妨害行為を繰り返す始末である。

また裁判員制度に関しては、すでに施行されているにも関わらず、「教え子を法廷に送るな！」などと、恰も自分たちは教員ですと告白している。心配せずとも教え子は、未成年者であるから裁判員に召集される

ことはない。成人してからのことは本人が決めるであろうから、そこまで口出しする権利はないはずだ。

差別をなくすと言いつつ、自衛官を「殺人集団」などと誹謗中傷し、自衛官の子や孫を差別しているのはどっちだと言いたい。

一方の人権を守るために、もう一方の人権を平気で踏み躪る二重基準ぶりや、教師の思いを忖度させて書かせる「人権作文」に、児童・生徒がウンザリしていることに、いい加減に気付くべきである。

原爆水爆禁止というのが、日本はそんなものを保持していないのに、毎年恒例で大集会を行っている。そんな集会は原爆水爆を保持、あるいは開発しようとしている国でやらねば意味がない。

朝鮮学校授業料無償化の実現を迫るが、我が国の公教育でさえ予算がままならず、耐震設備、教育教材が充分でない状況からすれば、そちらを拡充することが先決である。毎年、各PTAが様々な要望を続けているではないか。独自の民族教育を行う特殊学校への支援は、その本國から得るのが、「民族の誇り」を持たせることに有意義であるに違いない。

さらに采れるのは国旗国歌に反対して、法令違反行為に当たるというのに、式典での不起立を「信念を貫く立派な行為」と自己陶醉し、児童・生徒にもそれを押し付け、尊重されるべき個々の思想信条を侵しているのはどちらの方だと聞きたい。

特に反原発運動では、直ちに原発を止めろなどと主張するが、教育現場も電源なくしては授業が成り立たない。暗い教室のなかで授業を受けているのは、近眼になる児童・生徒が増えるばかりである。「教え子を近眼にするな！」と言いたい。

ることはない。成人してからのことは本人が決めるであろうから、そこまで口出しする権利はないはずだ。

差別をなくすと言いつつ、自衛官を「殺人集団」などと誹謗中傷し、自衛官の子や孫を差別しているのはどっちだと言いたい。

一方の人権を守るために、もう一方の人権を平気で踏み躪る二重基準ぶりや、教師の思いを忖度させて書かせる「人権作文」に、児童・生徒がウンザリしていることに、いい加減に気付くべきである。

原爆水爆禁止というのが、日本はそんなものを保持していないのに、毎年恒例で大集会を行っている。そんな集会は原爆水爆を保持、あるいは開発しようとしている国でやらねば意味がない。

朝鮮学校授業料無償化の実現を迫るが、我が国の公教育でさえ予算がままならず、耐震設備、教育教材が充分でない状況からすれば、そちらを拡充することが先決である。毎年、各PTAが様々な要望を続けているではないか。独自の民族教育を行う特殊学校への支援は、その本國から得るのが、「民族の誇り」を持たせることに有意義であるに違いない。

さらに采れるのは国旗国歌に反対して、法令違反行為に当たるというのに、式典での不起立を「信念を貫く立派な行為」と自己陶醉し、児童・生徒にもそれを押し付け、尊重されるべき個々の思想信条を侵しているのはどちらの方だと聞きたい。

特に反原発運動では、直ちに原発を止めろなどと主張するが、教育現場も電源なくしては授業が成り立たない。暗い教室のなかで授業を受けているのは、近眼になる児童・生徒が増えるばかりである。「教え子を近眼にするな！」と言いたい。

ることはない。成人してからのことは本人が決めるであろうから、そこまで口出しする権利はないはずだ。

差別をなくすと言いつつ、自衛官を「殺人集団」などと誹謗中傷し、自衛官の子や孫を差別しているのはどっちだと言いたい。

一方の人権を守るために、もう一方の人権を平気で踏み躪る二重基準ぶりや、教師の思いを忖度させて書かせる「人権作文」に、児童・生徒がウンザリしていることに、いい加減に気付くべきである。

原爆水爆禁止というのが、日本はそんなものを保持していないのに、毎年恒例で大集会を行っている。そんな集会は原爆水爆を保持、あるいは開発しようとしている国でやらねば意味がない。

朝鮮学校授業料無償化の実現を迫るが、我が国の公教育でさえ予算がままならず、耐震設備、教育教材が充分でない状況からすれば、そちらを拡充することが先決である。毎年、各PTAが様々な要望を続けているではないか。独自の民族教育を行う特殊学校への支援は、その本國から得るのが、「民族の誇り」を持たせることに有意義であるに違いない。

さらに采れるのは国旗国歌に反対して、法令違反行為に当たるというのに、式典での不起立を「信念を貫く立派な行為」と自己陶醉し、児童・生徒にもそれを押し付け、尊重されるべき個々の思想信条を侵しているのはどちらの方だと聞きたい。

特に反原発運動では、直ちに原発を止めろなどと主張するが、教育現場も電源なくしては授業が成り立たない。暗い教室のなかで授業を受けているのは、近眼になる児童・生徒が増えるばかりである。「教え子を近眼にするな！」と言いたい。



### 議員を動かす「秘」ノウハウ教えます！ 増木重夫 M情報

先日K氏より、「自治基本条例の件でD市会議員に頼みに行ったけど、全く無視された。あんな奴はアカン！」と電話が掛かってきました。そこで、議員を動かす【秘】ノウハウ教えます！

議員にお世辞を言う気は毛頭ありませんが、議員本人が釈明もしにくいと思いますので、代わりに少々。

議員は国会、地方問わず山ほど仕事を抱えています。保守系の議員に、例えば「自治基本条例は良いか悪いか」と問えば、「100%「アカン！」」というでしょう。それなら、即「自治基本条例反対！」で動いてくれるかといえはこれは話が別。あくまで、山ほどある「お仕事予定リスト」に項目が1つ加わるだけ。面倒なわけでもやる気が無いわけでもありません。時間や予算の制約の中、それを優先させるかという話になってきます。

我々にとっては「自治基本条例」は最優先課題ですが、他のグループは他の案件がもっと大事だという。その渦中にあるわけです。仮に議員の仕事の質において、「自治基本条例」反対が最重要としましょう。それを扱うとするとよほどごしかりした市民の後押しが必要です。市民の後押しなしでこのような大掛かりな政治行動ができるわけがありません。

「〇〇は重要だけど、果たして市民が何処まで付いてきてくれるかな。」と少しでも不安が走ったら議員として取り組めるわけが無い。議員が「お仕事予定リスト」で優先順位をつける場合、「①内容の重要度。②市民の支持、応援」という梯子の頑丈度。」の2点だと思えます。いくら屋根が雨漏りしていても、梯

子がグラグラでは怖くて屋根には上がれない。大怪我をしちゃいます。そして梯子が頑丈か否かを議員が判断するにはある程度の時間が必要。要は、議員との普段の付き合いではないでしょうか。

「我々はしっかりと梯子を持っています。」とわかってもらうには時間をかけて付き合い以外に方法はないのです。急に思い立って議員に何かを言っても急にも議員は動くわけが無いということです。

立場を逆に考えるとうわかれると思います。如何に重要なことであっても、あまり付き合ひの無い人から物を頼まれてあなたは動けますか。市民の要請で議員が動くということは、言わば議員と市民がお互いに連帯保証人になるということなのです。だから議員が古い付き合いのある人にするのは当たり前だと思います。「票を介在したギブ&テイク」という見方もひとつの考え方だと思います。しかしそれ以上に、梯子をしっかりと持つということ。

議員は『どの梯子が一番頑丈かな』と絶えず考えられています。だって屋根に上りたから議員になったのですから。

私のところにもいろいろな運動案が持ち込まれます。それに取り組むか否か、ハッキリ言って昨日今日の付き合いの人の話で動くことは絶対ありません。怖くしてしようがない。

ケネディのゲティスバーグ(確か?)の演説を今一度思いだしましょう。「国家が我々に何をしてくれるかではなく、我々が国家に何が出来るか。同様」

「議員が何をしてくれるのか」を言う前に、「議員にどのような協力が出来るか」を考えていただきたいと思えます。言い方を変えましょう。日本は議会制民主主義。要はいかに議員を説得するか。

「議員は何もやってくれない。」ではなく説得が悪いのです。「自治基本条例」賛成派も必死で議員を説得します。要は議員への説得合戦。そこを間違えたらいけないと思えます。「自治基本条例」は悪法に決まっている。イヤ、決まっていないんです。数では多いであろう左系はこんなにするらしいものは無いと思っているのです。「正しい」の定義は司法の場では証拠の有無。議会の場では多数。独善的「決め付け」で叫んでもなんの意味もありません。説得の前提は普段の付き合い！

### 活動資金に協力をお願い

まずは、平素より私どもの活動に力強いご支援を賜り心から御礼申し上げます。このレポートにもありますように、私どもは「国を破壊しよう」と思っている連中」と日々命がけて戦っています。ところが問題は活動資金。子供達に誇りある国を残すため今まで以上にがんばります。何卒資金のご協力を伏してお願ひ申し上げます。

※ この、M情報機関紙は新聞の形態をとっていますが、「活動の報告書」です。特に「購読料」は設定していません。カンパをよろしくお願ひいたします。

○ カンパ金の主な使途は下記団体の活動の企画運営費です。  
・活動の資料等の発送費・道路、公園

しばしば「議員なんてろくな奴はいない。皆自分の損得しか考えてない。」とグチる御仁が多くいます。たしかにそのような議員もいます。でもそれはごくわずか。大概の議員は薄給でよくそこまでの苦難！と感謝の念を禁じ得ません。類は類を呼ぶ。公の利益ではなく私の利益しか考えていないからそのような議員にしか出会えないわけです。議員に私的なことを頼むことなど論外の論外。議員の皆さん。今年の冬のお歳暮くれねれもマスキンを忘れなく！ 増木

【J支援等の口座】  
郵便振替 006808245054 MASUKI情報デスク  
三菱東京UFJ銀行 甲子中央店 024349 普通 増木重夫

使用申請料等・活動のための交通費、通信費・資料、横断幕、Tシャツ等の制作費・備品購入費  
○ M情報が活動の企画運営を行っている主な団体  
・ 救う会大阪 ・ NO! 民主「桜組」  
・ 靖国神社に眠る御霊に感謝する会  
・ 米国に原爆投下謝罪を求める会  
・ 大阪の公教育を考える会  
・ スパイ防止法の制定を求める会  
・ 外国人参政権に反対する会・関西  
・ 日教組の違法行為を追及する市民の会  
・ 竹島を奪還する会・関西  
・ 改憲祈念の会

◇ 前記口座、または同封の郵便振替にてご協力ください。

### 原稿・同封資料の募集について

また、弊紙は郵メールで郵送しています。重さ制限は50gです。また余裕があれば希望の論文、情報等ございましたらご相談ください。